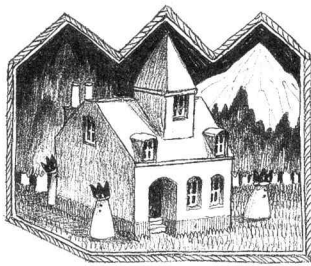


朝日歌壇 俳壇



〈日曜日のプロローグ 11〉 junaida

短歌時評 沖繩の複雑性を詠む

山崎 聡子

どれくらい食べれば傷を癒せるか「食べなさい」「食べなさい」と迫る嬸の屋良健一郎『KOZA』のこの歌に立ち止まった。屋良は一九八三年、沖縄市(旧コザ市)生まれ。「KOZA」という表記は、米軍統治時代を偲ばせることも、そこが基地を擁する土地であることを一重写しにする。嬸が一身に負う傷は、戦争による飢餓の、沖縄が体験してきた苦難の歴史の集積でもあるだろう。右腕に「沖繩人」と彫りてあるジョン

と知り合う週末のバー「ナイチャー」とは結婚するな「妹に相撲を見つづけた父が言うなり」一方でこの歌集は、沖縄が争い入り組んだ姿をも描写する。米軍軍人であろうジョンの腕に彫られた「沖繩人」の入れ墨。内地のスポーツであり、海外出身力士が多くを占める相撲を楽しむ祖父が、「ナイチャー」とは結婚するな」と言つこと。ここには一つの軸では語り得ない複雑さが渦巻くように存在する。

撃たれてもたぶん平気な乗りものに米軍基地のフェスにあって触れる行進をしたことがあるわたしたち軍隊よりは手を抜きながら平安まじりの新人賞受賞作を引いた。一九八八年生まれの平安は読谷村出身。米軍の払い下げ品を売る店や基地のフェスなどの日常が乾いた文体で描かれるが、そこにゆるり入り込む「戦争」の連続性が沖縄の肌感覚なのだろう。慰霊の日を前に、嬸の傷を抉るような議員の発言もあった。これらの歌を読みながら、故郷を好悪だけで語ることができる内地の特権を振り返った。(歌人)

風信

松木秀歌集『Easy Livin'』 2019年から24年までの歌を収めた第5歌集。「リア充の王様」といえばリア王でできると悲慘な最期となる、なれ(典々堂・2200円)
久保田淳校注『百人一首』 一首ごと丁寧な解説し、各作者の小伝や和歌史年表も掲載。書き下ろしの解説で「百人秀歌」との密接な関係についても言及。(岩波文庫・1716円)

☆は共選作。入選作はデジタル版などにも掲載・収録し、記事やSNSで引用することがあります。投稿は未発表の自作のみ、二重投稿不可。選者が添削する場合があります。郵便での投稿は無地のはがき1枚に1作品、横に住所、氏名、電話番号を明記。〒104-8661 晴海郵便局私書箱300、短歌は「朝日歌壇」、俳句は「朝日俳壇」へ。ネットからも投稿でき

永田和宏選

背番号3をみんなが欲しがった空き地の三角ベースでさえも(西条市) 村上 敏之
広辞苑次期改訂で載るだろうミスターの項に長嶋茂雄と(つくば市) 小林 浦波
「腰痛」が掘り「膝痛」が耕して「猫の額」に夏野菜植う(茨城県) 原 里江
☆統々と春蚕の繭は集まり来碓氷の里の古き製糸場(前橋市) 荻原 葉月
☆風渡る庄内平野の水張田の逆さ鳥海さ波が立つ(酒田市) 富田 光子
配給を終えたる鍋底拭いし手を舐め終えカメラを見詰めるガザの子(八王子市) 額田 浩文
そんなもの食べてなさそなタレントが出る食品コマーシャルあり(船橋市) 佐々木美彌子
ねえあなた今日はあなたの誕生日ケーキを供えて私が食べたわ(敦賀市) 大谷 静子
妹に話したいこと妹にしか話せないことがあ(仙台市) 小室 寿子
眠れぬ夜間違い探しの間違いの最後の一つが見つけられない(東京都) 木村 美夏

【評】早くも長嶋茂雄の歌が投稿されてきた。これからどれほどの数になるのか。村上さんは、三角ベースが懐かしい。原さん、腰痛と膝痛を抱えた夫婦が小さな畑で夏野菜を。小さな幸せ。十首目、そんなことしているから眠れないのです!

川野里子選

夾竹桃、ビーチパラソル、石畳、金魚のにおいの水が撒かれる(大和郡山形市) 四方 護
いじめられていた人も共に正面を向き思えば怖い集合写真(東京都) 上田 結香
修繕船入らぬドックに蝦蟇なきて群青色の夏来たらし(佐世保市) 鴨川 富子
空すべて鳥のトイレと思うとき空にも地にも自由なき戦地(河内長野市) 平岡 章子
初めての穏やかな顔 瞬見せ立ち去りにけり退学する子(さいたま市) 大浦 健
感傷も独りよがりの孝行も飲み込むような老母のあくび(栃木市) 渡辺 淳
冷凍室に夫が生きていた頃のシェウマイがある温めて食べる(茨木市) 瀬川 幸子
母のこと以外は何も聞かぬ父と母以外のこと話して帰る(佐世保市) 近藤 福代
一本のカマキリの脚、鳥の糞ベランタに残る(尼崎市) 栄 周子
弱肉強食 忙しなく汗かく人のトラックのミラーに掛かる誰かのお守り(八王子市) 船井 りん

【評】一首目、金魚の匂いが鮮やかで濡れた石畳が見えるよう。二首目、心も表情も消して並ぶ集合写真は確かに怖い。三首目、ドックの空間や海の気配が五感で伝わる。四首目、鳥が自由に糞をする空も地も戦地の人にとっては危険なのだ。

佐佐木幸綱選

尾道の立ち呑み店で祝福を受けるしまなみ自転車走破(東京都) 本橋 正敏
ほんじつも館内まはり一万歩達成したり司書とふ仕事(長門市) 松岡 加恵
お試しのデイスーパーより帰る来て母号泣すやんぬる哉嗚呼(小美玉市) 津嶋 修
舞鶴の敷島通りにそよぐ風笑顔も連れて乳母車行く(舞鶴市) 新谷 洋子
☆風渡る庄内平野の水張田の逆さ鳥海さ波が立つ(酒田市) 富田 光子
追い抜いたお通路さんに墓掃除終えた帰路また擦れ違ふなり(高崎市) 嶋田由紀子
☆統々と春蚕の繭は集まり来碓氷の里の古き製糸場(前橋市) 荻原 葉月
百年を越えた八千代座満席で歌舞伎役者に称賛の嵐(熊本市) 矢ヶ部貴子
今日もまたあなたはいない朝が来てあなたの帰らぬ一人の夕餉(敦賀市) 大谷 静子
若々しい三田佳子さんをドラマに見て始めかけてた終活やめる(滋賀県) 木村 泰崇

【評】第一首、充足感いっぱい。しまなみ海道は、尾道市と今治市を結ぶ約七十kmのサイクリングロード。第二首、図書館の司書の人たちがこれほど歩いているとは知らなかった。第三首、「やんぬる哉」は「打つ手が無い」の意味。

高野公彦選

「古古古米古古古米」平然と農家侮る言葉を使う(観音寺市) 篠原 俊則
徴さるものなべて赤 伐採を待つ老木に小さき赤布(多摩市) 豊間根則道
新緑の樹々もつこもこ生ひしけりボタ山笑ふ泣きつわらふ(嘉麻市) 野見山弘子
栄光の男が旅立つその朝は太陽見せずに空が泣いてた(甲州市) 麻生 孝
ンクンクと一歳の孫ミルク飲む吾に10キロすべてをあずけ(飯田市) 宮沢 泉
国技館取り組み前に拍手起きほれば四股のきれいな力士(富山市) 松田 わこ
オウゴンゴルになるを知らずや意のままの高関税も留学阻止も(東京都) 北條 忠政
蛸・蛸・蛸・蛸 蛸も部首は虫仲間なんだと虹は弧を描く(河内長野市) 平岡 章子
覚えある伝票の文字従兄より故郷の米が突然届く(京都市) 有賀 香
みずからの身体を小さな堰にして親は子鴨を流れに誘う(八尾市) 吉谷 往久

【評】1 首目、苦労して作った米に「古」を付けるのは農家に失礼だ、と。2 首目、あの戦争時の赤紙も。3 首目、栄えた炭鉱が廃鉱になったのが悲しく「泣きつわらふ」のだ。4 首目、長嶋茂雄が逝去した6月3日の朝空は泣いていた、と。